

有効期間満了：2011年3月28日

案件名	平成 22 年度製造・販売分節水器「エコタッチ」シリーズのカーボン・オフセット ②蛇口用切り替えコック
申請者	エコライン株式会社
案件の概要	<p>申請者が対象商品の調達・製造・輸送に伴う温室効果ガスの排出と同量のカーボン・オフセットを実施する。これは、「製品を生産する段階から消費者に届けるまで」が自社の責任の範囲であるとの考えに基づくものである。</p> <p>バウンダリ内の温室効果ガス排出量計算やカーボン・オフセットの手続きはカーボン・オフセット事業者に委託し、CER を使用し、国別登録簿の取消口座へ移転する。</p>
認証区分・タイミング	I-1 (商品使用・サービス利用オフセット) 事後認証時
カーボン・オフセットの主体 (帰属先)	エコライン株式会社
算定範囲	<p>本申請案件の対象商品の調達・製造・輸送・容器包装に伴う温室効果ガスの排出をオフセットの対象とする。具体的には、材料生産、製造 (部品加工、メッキ、組立)、左記各段階及び完成品が申請者に届けられるまでの輸送、容器包装に伴う CO<sub>2</sub> の排出を評価の対象とする。</p> <p>対象商品にかかる主要排出源は、部品加工における電力の使用による CO<sub>2</sub> 排出である。</p>
オフセット量 / 算定排出量	合計 80t/69.75t (認証番号 4CJ-0900028、4CJ-0900029、4CJ-0900030 で使用するクレジットは同時に無効化される。)
クレジット種別	京都クレジット (種類：CER)
プロジェクト名	インド農村地帯 農業廃棄物を利用したバイオマス発電
無効化日	平成 22 年 3 月 31 日 (予定)
情報公開	<p>&lt;カーボン・オフセットとは&gt;</p> <p>地球温暖化は国際的な問題として広く知られ、私たちが早急に取り組むべき課題となっています。地球温暖化の原因である CO<sub>2</sub> 等の温室効果ガスの排出削減が世界レベルで求められています。</p> <p>私たちが個人や企業レベルでできる取り組みの一つに、カーボン・オフセットがあります。カーボン・オフセットとは、私たちの日常生活や経済活動において避けることのできない温室効果ガスの排出について、その排出量に見合った分を他社や他国で行われた温室効果ガスの追加的削減で埋め合わせするという考え方です。</p> <p>&lt;エコラインの取り組み&gt;</p>

弊社はこれまで下記のような環境への取り組みをしてきました。

**【基本理念】**

- ・ 節水による経費節減で顧客満足を創造します。
- ・ 節水を通じ地球環境保全に寄与します。
- ・ 節水による CO<sub>2</sub> 排出削減で地球環境満足を創造します。
- ・ 企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。

**【具体策】**

- ・ 容器包装リサイクル法に則り、その対象となる容器について、日本容器リサイクル協会に委託費用を負担しています。
- ・ 工場内で発生する廃棄物は、産業廃棄物として処理業者に処理委託し、「マニフェスト保管」をしています。
- ・ 事務所の冷房温度を 28℃以上としています。
- ・ 事務所の暖房温度を 20℃以下としています。
- ・ 作業者がいない部屋はこまめに消灯をしています。

これまで、弊社では省エネ電球への切り替えや、冷暖房の温度調節、作業効率化の推進などにより CO<sub>2</sub> 排出削減努力を実施してまいりました。また、お客様に対しては、弊社 Web サイトおよびカタログにおいて、弊社製品の節水および CO<sub>2</sub> 削減の効果をお知らせしています。

<エコラインのカーボン・オフセット>

しかし、製品を製造する以上は、温室効果ガスの排出をゼロにすることはできません。

そこで、弊社は「製品を生産する段階から消費者に届けるまで」が自社の責任の範囲であるとの考えに基づき、製品製造に伴いどうしても避けられない温室効果ガスの排出をカーボン・オフセットにより相殺いたします。

<CO<sub>2</sub> 算定根拠>

平成 22 年度に弊社が製造・販売する「エコタッチシリーズ」の調達・製造・輸送に伴う温室効果ガスの排出は年合計約 70t-CO<sub>2</sub> (計画値) です。排出量の算定は、「カーボン・オフセットの対象活動から生じる GHG 排出量の算定方法ガイドライン ver.1.1(カーボン・オフセットフォーラム)」に基づき、CO<sub>2</sub> 排出係数に関しては、「日本国温室効果ガスインベントリ報告書 (NIR, 2008 年 5 月版)」「日本産業環境協会(JEMAI)LCA データベース」等を用いました。算定は株式会社 PEAR カーボンオフセット・イニシアティブに依頼しました。算定結果の詳細は次の通りです。

**【製造に伴う温室効果ガス排出量】**

① 流量制御弁：0.31kg-CO<sub>2</sub>/個

② 蛇口用切り替えコック：6.90kg-CO<sub>2</sub>/個

③ 節水シャワーヘッド：1.11kg-CO<sub>2</sub>/個

【客先への輸送に伴う温室効果ガス排出量】製造に伴う温室効果ガスの2%程度と設定しました。

【容器包装の使用に伴う温室効果ガス排出量】製造に伴う温室効果ガスの2%程度と設定しました。

上記により保守的な見積もりを行い、計画排出量よりも10%程度を上乗せした上記①～③の合計80t-CO<sub>2</sub>のカーボン・オフセットを行います。

#### <オフセットの方法>

弊社のカーボン・オフセットは、インドのバイオマス発電事業から発生したクレジット（排出権）を用います。クレジットは、株式会社 PEAR カーボンオフセット・イニシアティブから既に購入しており、日本政府の取消口座に移転を完了しました。（審査時点：2010年3月31日移転予定）

[カーボン・オフセットの主体]エコライン株式会社

#### [プロジェクト概要]

プロジェクト名：インド農村地帯 農業廃棄物を利用したバイオマス発電プロジェクト

（正式名称：Project 0391: Indur 7.5 MW Non-Conventional Renewable Sources Biomass Power Project）

プロジェクト実施国・実施地域：インド南東部 Andhra Pradesh 州、Nizamabad 地方の農村地域

プロジェクトタイプ：CDM（クリーン開発メカニズム）

#### プロジェクト概要：

インド南東部農村地域の農業を行うことによって発生する廃棄物を燃料として発電を行います。発電所が稲わらやさとうきびの搾りかすを地域農家から買い取り、これらを燃焼することによって電気を作り出します。これらの農業廃棄物は成長の過程で CO<sub>2</sub> を吸収していますので、燃焼による CO<sub>2</sub> 排出分は、この吸収量で相殺され、実質的に CO<sub>2</sub> 排出のない発電が実現します。

このプロジェクトは、世界で温室効果ガス削減を目指す取り決めである京都議定書が定める CDM（クリーン開発メカニズム）という制度により、国連に登録されています。

クレジット期間：2003年2月16日～2010年2月15日（更新あり）

プロジェクトの排出削減・吸収量：35,116t-CO<sub>2</sub>/年

クレジットの種類：CER

プロジェクトの詳細は PEAR 社 Web サイトをご覧ください。

有効期間満了：2011年3月28日

<http://www.pear-carbon-offset.org/index.html>

[その他商品関連情報]

お客様のカーボン・オフセットに関する費用負担：平成22年度にエコラインが製造・販売する「エコタッチ」のカーボン・オフセットは、弊社の責任の範囲で行います。従いまして、カーボン・オフセットに関する費用は弊社が負担します。お客様への費用負担はございません。

その他：下記 Web サイトをご覧ください。

商品に関する詳細：<http://eco-line.co.jp/shop.html>

通販法の表記：<http://eco-line.co.jp/tuuhan.html>

<お問い合わせ先>

弊社の環境活動についてご質問等ございましたら、お電話または問い合わせフォームにてお問い合わせ下さい。